今号の主な記事

定期全国大会 特集

2面 定期全国大会〈初日〉
3面 定期全国大会〈初日午後～２日目〉
4面 定期全国大会〈最終日〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス https://www.jsu.or.jp ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3133号（昭和25年8月24日第三種郵便物認可）

2026年（令和８年）
11月15日
本紙は毎月５・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区
六本木７丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 高宮 成昭
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339

定価１部 50円
（組合員の購読料は組合費に含む）

第87回 定期全国大会

示せ！産別の団結と力、活発な論議で第82年度活動方針を決定

守り抜け日本の海運・水産！一致団結！築こう希望に満ちた新時代

11月４日から11月６日までの３日間、ホテルマリナーズコート東京（海員福祉研修会館）において、第87回定期全国大会が開催され、初日午前の部は井林辰憲国土交通大臣をはじめとする来賓の方々からご祝辞をいただき、また、高市早苗内閣総理大臣（自由民主党総裁）や細野豪志復興大臣・内閣府特命担当大臣（防災）から祝電・ビデオメッセージをいただき、歴史ある全国大会に華を添えた。

初日午後は第81年度活動報告と会計報告、第82年度活動方針案・第１号議案が審議された。二日目は外航・水産・国内の各分科会議が開かれ、大会最終日は第５号議案を審議した後、常任役員選挙を実施し、組合長に松浦満晴組合長が再選され、松浦組合長の執行体制のもと、新たな活動方針の具現化に向けて組合活動が始動した。

松浦組合長のあいさつ



定期全国大会は11月４日午前９時30分に始まり、恒例の組合歌斉唱、開会の辞に続き、議長に浦隆幸関東地方支部長、副議長に遠藤飾北海道地方支部長と浅野忠行九州関門地方支部長を選出した。浦議長は議長登壇あいさつにおいて、代議員に建設的で実りある討議を要請した。

初日午前は、行政省庁や各政党をはじめ、諸外国の友誼団体を含めた関係団体の来賓の皆さまからご祝辞をいただいた。午後は第81年度活動報告・会計報告が採決の結果、絶対多数で承認された。続いて第82年度活動方針案「第１号議案」（活動の基調）が提案・審議され、採決の結果、絶対多数で承認された。

組合長あいさつ・要旨

第87回定期全国大会の開催にあたりまして、主催者を代表しあいさつ申し上げます。

海上を職場とするわれわれ船員にとって、安心して就労し続ける上でも、将来にわたって「海の平和」を堅持していくことは最も優先すべき課題の一つです。

先の太平洋戦争におきまして、６万643名もの諸先輩が犠牲となりました。その後も1980年から続いたイラン・イラク戦争などにおいて、多くの民間船員や船舶がその戦禍に巻き込まれ、日本人船員も犠牲になっております。このような不幸な経験を忘れることなく、本組合は「世界の平和」と「平和な海」を強く希求し、「海員不戦の誓い」のもと、「戦火の海に船員は二度といかない、いかせない」という強い決意を持ち、恒久的な海の平和を希求する運動を継続してまいりました。

しかしながら現代においても、世界情勢はこれまで以上に予断を許さない状況が続いております。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルとハマスとの軍事衝突、イエメンの武装組織フーシ派による攻撃、アメリカ・イスラエルのイランとの軍事衝突など、いまだ悲惨な紛争が繰り返され、民間船舶が攻撃対象とされる事案も頻発しており、海の安全がますます脅かされております。

本組合は引き続き、情勢の変化に注視しつつ、船員の安全確保を求め、政府ならびにＩＴＦを通じ国際機関への働きかけを行うとともに、関係船主団体とも連携し、船舶航行と漁業就業の安全確保に取り組んでまいります。

また、最も重要な課題の一つに、後継者確保・育成がございます。海運・水産産業におきましても将来を担う後継者の確保・育成は差し迫った業界全体の最重要課題であり、責任を持って取り組んでいかなければなりません。

われわれ全日本海員組合も、次世代を担う子どもたちが船や船員に魅力を感じ、一人でも多くの若者が職業として船員を志してくれるよう、毎年多くの関係者の協力のもと、小中学生を対象とした体験乗船・地引網体験・出前講座といったイベントを国内各地で実施しております。

わが国は四面を海に囲まれた海洋国家であり、古くから海の恵みを享受してまいりました。わが国周辺はもとより、世界の海を職場とするわれわれ船員は、日本経済の発展と国民生活の安定に大きく寄与してきました。

われわれ船員を取り巻く課題は山積しており、船舶の代替燃料や自動運航船など、新技術の開発と導入により急速に時代の変化が進む中、われわれ全日本海員組合は船員の産業別労働組合として、組合員の安全と雇用、そして家族の生活を守り、船員の地位向上を図るべく、果たすべき役割を全うしてまいります。

結びに、本日ご参集いただきました代議員各位におかれましては、現場組合員の負託に応える、揺るぎない活動方針を構築すべく、真摯かつ熱心な討議をお願いいたしまして開会のあいさつといたします。



祝辞を述べる井林辰憲国土交通大臣

定期全国大会　初日　午前の部

ご来賓の皆さまからのご祝辞

定期全国大会は11月4日午前9時30分に始まり、豊満芳弘大会書記長が開会を宣言した後、錦織康二三崎支部次長の指揮による組合歌斉唱が行われた。続いて立川博行中央執行委員が開会の辞を行った後、齋藤洋中央執行委員が大会開催に至る準備報告を行った。

大会議長に浦隆幸関東地方支部長、副議長に遠藤飾北海道地方支部長と浅野忠行九州関門地方支部長を選出し、浦隆幸議長は議長登壇あいさつにおいて、代議員に建設的で実りある討議を要請した。

次に各種機構委員の確認と各種委員会委員指名を行った後、主催者を代表して松浦満晴組合長があいさつを述べ、続いて来賓祝辞では、井林辰憲国土交通大臣と芳野友子日本労働組合総連合会会長（連合）をはじめとする来賓の方々からご祝辞をいただいた。また、多くの祝電のほか、ビデオメッセージも伝えられた。


国土交通大臣 **井林辰憲**


東京都港湾局長 **田中彰**


大会に出席されたご来賓の皆さま


水産庁長官 **藤田仁司**


公明党・衆議院議員 **佐藤英道**


立憲民主党・代表代理（参議院議員） **徳永エリ**


国民民主党・党首 **玉木雄一郎**


日本労働組合総連合会会長 **芳野友子**


インド船舶職員組合書記長（MUI） **サヴィオ・ラモス**


シンガポール海員組合会長（SOS） **カン・スーン・フット**


シンガポール船舶職員組合書記長（SMOU） **マリー・リュウ**


AMOSUP委員長 **コンラッド・オカ**


国際運輸労連書記長（ITF） **スティーブ・コットン**

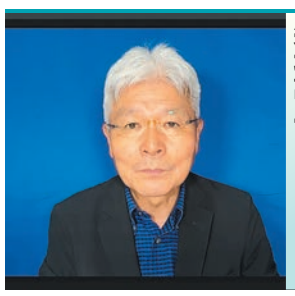

全国海友婦人会会長 **酒井智代子**


全日本港湾運輸労働組合同盟会長 **足立賢次**


全日本交通運輸産業労働組合協議会議長 **池之谷潤**


組合政治参与 **赤池誠章**


組合名誉政治参与 **衛藤征士郎**


組合政治参与 **逢坂誠二**


海事振興連盟会長 **後藤茂之**


防災大臣・復興大臣 **細野豪志**

ビデオメッセージ


議長団・左から浅野忠行副議長、浦隆幸議長、遠藤飾副議長

高市早苗 内閣総理大臣（自由民主党総裁）からの祝電メッセージ

全日本海員組合第87回定期全国大会のご開催を、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より我が国の海上輸送、水産業、港湾物流を支え、国民生活と産業活動の基盤を守っておられる組合員の皆様に、深く敬意と感謝を申し上げます。

全日本海員組合は終戦直後の昭和20年に結成されて以来、日本で唯一の産業別単一労働組合として、船員の労働条件の向上、安全確保、人材育成、さらには海事産業の発展に大きく貢献してこられました。長年にわたる皆様のご尽力に改めて敬意を表します。

我が国は四方を海に囲まれた海洋国家です。エネルギー、食料、原材料の多くを海外に依存する我が国にとって、海上輸送の安定確保は国民生活と経済活動を支える生命線と言っても過言ではありません。世界情勢が不確実性を増す中にあっても、船員の皆様は昼夜を問わず物流を支え続けておられます。皆様の献身によって、私たちの暮らしと経済は成り立っています。

近年は船員不足や高齢化への対応、人材確保・育成、海上安全の確保、カーボンニュートラルへの対応など、海事産業を取り巻く課題が山積しています。一方で、デジタル技術や自動運航技術の進展、新たな海洋産業の創出など大きな可能性も広がっています。こうした変化の時代だからこそ、船員の皆様が誇りと安心を持って働ける環境を整え、次の世代へ海の仕事の魅力をつないでいくことが重要です。

高市内閣では、『日本成長戦略』と『地域未来戦略』を両輪として、「海洋」「造船」「港湾ロジスティクス」を戦略17分野に位置付け、海洋資源開発や次世代船舶、港湾機能の高度化などへの投資を加速し、造船産業クラスターの形成や関連拠点の整備を力強く推進しています。海がもたらす恩恵に感謝しつつ、海洋政策を着実に進め、「海洋国家・日本」を一層強く豊かなものとしていくことに力を尽くしてまいります。結びに、全日本海員組合の益々の御発展と、組合員並びに御家族の皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

定期全国大会　初日　午後の部

第81年度の活動報告と会計報告／第82年度活動方針案・第1号議案審議


会場風景

初日の午後は、はじめに第81年度活動報告の審議を行い、絶対多数で承認され、続いて審議された第81年度会計報告も採決の結果、絶対多数で承認された。

次に第82年度活動方針案「第1号議案」が提案された後、大会に上程された第1号議案の併託地区提出議案について、審議が行われた。

第1号議案（活動の基調）に対する併託地区提出議案は関東地区から修正案4本が上程された。上程者は▽関東地区第1号＝大井拓海代議員（船員の確保・育成の推進「後継者の確保・育成の推進」に関わる内容）▽関東地区第2号＝無関健一朗代議員（船員の確保・育成の推進「後継者の確保・育成の推進」に関わる内容）▽関東地区第3号＝神原将平代議員（諸課題への対応「カボタージュ規制の堅持」に関する内容）▽関東地区第4号＝吉松敏宏代議員（諸課題への対応「情報通信インフラの整備」に関する内容）―で、各上程者から、提案内容と提案に至った理由が説明された。

その後、大会議長の進行で会議が進められ、論議では、多くの代議員から賛同の意見や、活動方針案第1号議案を補完する意見、理解を深めるための質問など、さまざまなアングルで議論が交わされた。本部側答弁も併せ、質疑・応答で理解を深めた後、本部見解が示され、最終的に関東地区第3号修正案を取り下げ、他の一部修正を決議案委員会に委ねることとし、第1号議案を絶対多数で可決承認した。

第1号議案で3本の修正案を決議案委員会で修文し承認

関東地区―第1号

（概要）

船員の確保・育成の推進

わが国では少子高齢化を背景に、2008年（平成20年）より人口減少の一途を辿っている。

2025年（令和7年）の出生数は、前年より2・2％減少し67万1236人となり戦後最少となっており、生産年齢人口の減少によってあらゆる産業で若年労働者の確保が困難になると予想されるなか、海運・水産産業における有効求人倍率が、近年、陸上の約4倍に達するなど、船員不足が顕著となっている。

関東地区―第2号

（概要）

船員の確保・育成の推進

わが国の船員養成を担う独立行政法人海技教育機構（JMETS）の船員養成定員を、国は2017年（平成29年）の390人から500人を目標に掲げて段階的に拡大する方針を示しているが、いまだ目標達成には程遠い状況にある。船員職業の魅力を伝える海事広報活動とともに、養成定員の拡大に向け、練習船・学校施設の運営・拡充、教員の確保などの予算確保が必要不可欠である。

しかしながら、海技教育機構の運営費交付金は長期にわたって削減され続け、2001年（平成13年）度の約105億円から2026年（令和8年）度の当初予算は約63億円とされ、すでに設備の老朽化や教員不足など事業運営に支障をきたしている。こうした状況は国が掲げる船員確保目標の達成に逆行するものであり、看過できない。

関東地区―第4号

（概要）

諸課題への対応　情報通信インフラの整備

日本沿岸航行時や湾内・半島部での航行時において、携帯電話や地上デジタルテレビ放送の不感帯海域が依然として存在している。知床遊覧船事故を受け、一般旅客を搭載する船舶への安全設備として、法定無線設備の搭載が義務化され～本組合は、今後も関係省庁による通信サービスの高度化や海上ブロードバンドの普及に向けた取り組みの促進を求め、情報通信インフラの整備促進に引き続き取り組んでいく。

定期全国大会　2日目

各分科会議（外航・水産・国内）

活動方針第2号、第3号、第4号の各議案を審議・決定

後、具体的な審議は午後の会議で行うこととし、外航部属全国常任委員選挙を行った。

午後は第2号議案「国際・外航部門の活動について」と地区提出議案の審議を行い、論議を重ねた後、池谷中央執行委員から地区提出議案に対する本部見解を示し、最終的には決議案委員会に一任することを確認し、第2号議案「国際・外航部門の活動について」を絶対多数で可決した。

続いて、外航部属全国常任委員選挙の結果報告が行われた後、最後に松浦満晴組合長から締めくくりのあいさつがあり、16時に終了した。

外航分科会議

11月5日9時30分から、ホテルマリナーズコート東京2階「平安」で開催され、議長に木下友喜関東地方支部副支部長、副議長に小林泰之大阪支部長と臼井優作商船三井クルーズ株式会社職場委員を選出した。

議事に入り国際局関連の報告事項として、外航関係7項目、国際関係3項目の主要活動について報告し、質疑応答で、代議員各位との共通理解を図った。

続いて、池谷義之中央執行委員から第2号議案「国際・外航部門の活動について」ならびに地区提出議案提案者から修正案1件が上程された三組合長代行から閉会のあいさつがあり、15時35分に全ての議事を終了した。

水産分科会議

11月5日9時30分からホテルマリナーズコート東京5階視聴覚室で開催され、議長に柴田哲也鹿児島支部長、副議長に菅野直樹関東地方支部次長と小南貴司共同船舶株式会社職場委員を選出した。

報告事項に入り、8月1日以降の水産部門の主要な活動を報告し、代議員からの質問に本部から答弁を行い、活発な意見交換を行う中で理解を深め活動報告が確認された。

第3号議案「水産部門の活動について」の提案では、趣旨説明を行い、審議では活動方針を補完する多くの質問・意見があり、本部から答弁を行い、活動方針に対する理解を深めた後、第3号議案について挙手による採決を行った結果、満場一致で第3号議案「水産部門の活動について」が採択された。最後に鈴木順

国内分科会議

11月5日9時30分から、本大会会議場で開催し、議長に二神健太沖縄支部長、副議長に井上寛信新潟支部長と株式会社商船三井さんふらわあの横山祐貴職場委員を選出し、8月1日以降の国内部の主要な活動9項目について報告を行い、質疑応答で理解を深め、午前の議事を終えた。

午後の議事は、国内部属全国常任委員選挙を行った後、第4号議案「国内部門の活動」を提案し、国内分科会議の併託審議に付された「大阪地区―第1号決議案」が上程され、審議では▽燃料油価格高騰への対応について▽自動運航船の進捗状況ならびに課題について▽各自治体からの港湾使用料減免などの具体的な支援について▽地区協議会への参画について▽本年11月に発足された防災庁の船舶活用医療への指針について―などの質問・意見があり、質疑応答で理解を深めた。

また、上程された地区提出議案「大阪地区―第1号決議案」に対する本部見解を示した結果、提案者から本部見解を受け入れたいとの表明があり「大阪地区―第1号決議案」は、決議案委員会で修文し受け入れることとした。

最後に田中伸一組合長代行からあいさつがあり、16時10分に終了した。

2026年11月15日

中央選挙委員会　議長　齋藤　洋

第41期全国委員の資格喪失告示

一、次の者は、規約第47条A項8号により、全国委員資格を喪失したので告示する。

《企業区・企業単位》

032　関東地区外航Cグループ　枝常　楽

037　関東地区内航Dグループ　山川　京介

061　ケイラインローロー バルクシップマネージメント　山﨑　諒

第41期全国委員・補充選挙の告示

規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、第41期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。

一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員

《選挙単位コード・単位名》

企業単位　032　関東地区外航Cグループ

企業単位　037　関東地区内航Dグループ

企業単位　061　ケイラインローロー バルクシップマネージメント　1名

二、補充選挙の実施日程

立候補届出期間　2026年11月15日より 2026年11月24日まで

候補者告示　2026年11月25日

投票期間　2026年11月25日より 2027年1月4日まで

当選人告示　2027年1月5日（予定）

三、補充選挙の被選挙人

（1）企業区

全国委員選挙規則第25条B項により、補充選挙告示日に補充選挙を行う企業単位に所属する完全資格組合員とする。

四、立候補の届け出

立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づく立候補届を担当地区選挙委員会へ提出すること。

五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先

中央選挙委員会事務局（総務部）

以　上

活動方針の具現化に向けて
新執行体制がスタート


中央執行委員（国際局長）
池谷義之


副組合長
平岡英彦


副組合長（組合長代行）
田中伸一


組合長
松浦満晴


中央執行委員（総務局長）
髙宮成昭


中央執行委員（政策局長）
立川博行


中央執行委員（国内局長）
齋藤洋


中央執行委員（水産局長）
大山浩邦

定期全国大会　最終日

第5号議案
「第82年度総予算および設備計画」を審議



大会最終日は、午前9時30分から開催され、深野大樹資格審査委員長から資格審査報告があり会議の成立を確認し、続いて齋藤洋大会運営委員長から議事日程について報告が行われ承認された。

その後、住成信役員選挙委員長から、大会二日目の各分科会議で行われた全国常任委員選挙について、結果報告があり、大会二日目の外航分科会議については、大山浩邦外航部長、水産分科会議は松本順一水産部長、国内分科会議については平岡英彦中央執行委員（兼務国内部長）から報告され、満場の拍手で確認された。

続いて、活動方針案の審議に移り、齋藤洋中央執行委員が第5号議案「第82年度総予算および設備計画」を提案、審議を経て絶対多数で承認された後、常任役員・会計監査・執行部員登録者全国常任委員の選挙の投票を行い午前の会議を終了した。

午後の会議では、住成信役員選挙委員長から、常任役員・会計監査・執行部員登録者全国常任委員の選挙結果が報告され、常任役員は松浦満晴組合長・田中伸一副組合長・平岡英彦副組合長・池谷義之中央執行委員・大山浩邦中央執行委員、齋藤洋中央執行委員、立川博行中央執行委員、高宮成昭中央執行委員の8人が当選した。また、その後、松浦組合長から統制委員・特別執行委員・財務委員・公認会計監査法人などの選任・指名が行われ、満場の拍手で承認された。

その後、山原始決議案委員長から、付託されていた修正案と決議案の報告が行われ、満場の拍手で承認された。最後に中央執行委員会を代表し、松浦満晴組合長から閉会の辞が述べられ、議長団降壇あいさつの後、松浦組合長の掛け声による「ガンバロー三唱」で第87回定期全国大会を締めくくった。

